



さくら

題字 足立区長 近藤 やよい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 市村 智
編集 広報委員会
発行日 2021年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「魚の大ぼうけん」 入谷小 3年 塚本 セイジ 作

目次

各種受賞者祝賀会	2
子どもたちはいま	3
コロナ禍での取り組み	4
地域を訪ねて	5
ボランティア活動	6
中学生短歌	7
追悼のことば	8
編集後記	

ご挨拶

福祉管理課長 千ヶ崎 嘉彦



このたび4月から福祉管理課長に着任いたしました千ヶ崎と申します。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私はこの3月まで、同じ福祉部内の地域包括ケア推進課で、主に高齢者の暮らしを支える仕組み・地域づくりに携わっておりました。民生・児童委員の皆様とご一緒する機会もあり、皆様の活動が、地域での「人と人とのつながり」を力強く支えていることを実感しておりました。

コロナ禍では、様々なことが思うように進まず、日々悩みながら新しい仕事と向き合っております。民生・児童委員の皆様とともに、足立区民の福祉増進のために、誠実さを忘れず努めてまいる所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

お世話になりました

納税課長 秦 章雄 (前福祉管理課長)



2年間でしたが、民生・児童委員の先生方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

就任1年目は先生方の活動や行事についていくのが精一杯な面もありましたが、本当に楽しく仕事をさせていただきました。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた昨年は、民生・児童委員の先生方と十分な活動ができませんでした。その反面、区民の皆様には民生・児童委員の活動が必要不可欠なことを改めて実感した1年でもありました。

新型コロナウイルスの影響はまだ続きそうですが、先生方におかれましては体調には十分ご留意いただければと思います。

4月からは納税課で勤務をしております。これまでと同様にご指導いただければ幸いです。



令和2年度 各種表彰受賞者祝賀会

令和3年3月17日に令和2年度各種表彰受賞者祝賀会が足立区役所の特別応接室にて開催されました。

令和2年度の祝賀会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から例年よりも規模を縮小して行われました。

民生・児童委員信条朗読に始まり、市村智協議会会長の主催者挨拶、近藤やよい区長より来賓挨拶、来賓紹介、表彰受賞者紹介と進みました。

その後、東京都社会福祉協議会会長表彰を受賞された佐野地区木内信雄会長より「今回の受賞に恥じることはないよう、一層気を引き締め、今後も、足立区の地域福祉増進のため、微力ながら力を尽くしてまいります」と受賞者を代表して挨拶がございました。

閉会後には、表彰受賞者が区長・合同会長と一緒に記念撮影を行い、市村智協議会会長より記念品の贈呈がされ、式典は終了いたしました。

(広報委員会 記)



▲受賞者代表挨拶の様子



区立図書館に「民生・児童委員 PR コーナー」設置

今年も民生・児童委員のメインイベントであるPR週間がコロナ禍の中、中止になりました。そのような状況の中で民生・児童委員を知ってもらうため、足立区立の図書館と協力し、区内14か所の区立図書館（鹿浜図書館は改修工事のため、設置せず）に民生・児童委員PRコーナーを設置しました。

それぞれの図書館では、限られた空間に、広報紙「さくら」をはじめとした民生・児童委員の活動と役割がPRされていきました。来館者の目にとまるよう、図書館の入口に様々な工夫をして掲示しており、民生・児童委員に関係する図書が選ばれ、コーナーに集めて並べられていました。

取材した中央図書館では、「子ども食堂」「認知症カフェ」などを紹介した本が展示してあり、すでに数名の方に図書の貸し出しをしたとの話を伺いました。「子ども食堂」に関する図書の貸し出しが多いそうです。これを機に「子ども食堂」「認知症カフェ」が増えたら良いと思いました。

コロナ禍で我々の生活は大変ですが、見方を変えて

みると逆にチャンスなのかもしれません。展示は5月30日で終了しましたが、年間を通して民生・児童委員のコーナーが設けられ、定期的に変えて活動を紹介することができれば、来館される多くの方に民生・児童委員を知ってもらうことができるのではないかと思います。図書館での展示を定期的開催する事ができれば、コロナに打ち勝つ原動力になるのではないのでしょうか。

(4地区 吉田祐一 記)



▲広報紙「さくら」は、50号～55号を展示



シリーズ 中高生の居場所を兼ねた学習支援施設 子どもたちはいま アダチベースがめざすもの

アダチベースは、足立区くらしとしごとの相談センターより業務委託を受け、認定NPO法人カタリバが運営する居場所を兼ねた学習支援施設です。区内2か所で、家庭環境など“自身ではどうすることもできない”課題を抱える中高生に向け、地域みなさんと協働し、居場所・学習・体験・食事を届けています。

コロナに負けず温かい食事を提供

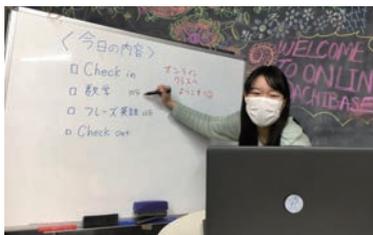
毎日の食事支援では、民生・児童委員として活躍されている地域の方が調理のお手伝いをしてくださり、コロナ禍以前は温かい食卓を総勢20名ほどで囲んでいました。今は感染症対策のため食卓を囲むのは難しい状況ですが、希望する子どもたちに毎日温かい食事を提供しています。

オンラインでつながりと学びを継続

学習支援では、2020年3月より施設での対面支援の代わりに、タブレットとWi-Fiを無償貸与。どんなときでもつながりを絶たず、学びを止めないことを第一に考え、休校期間中もつながり続けることができました。現在は対面とオンライン双方の支援を継続し、子どもたちにとって参加しやすい場を提供しています。

2020年12月には、オンラインでイベントを開催して地域みなさんにもご参加いただき、実行委員が作ったクイズ大会やオンライン上でのおしゃべりなど、新たな交流をもつことができました。

子どもたちにとって、自分を応援してくれている大人の存在は大きな力になります。今後もさまざまな形で交流できるよう模索していきます。



▲緊急事態宣言下でも、タブレットを通して学習伴走



▲配付したタブレットを通して初めて生徒と交流。画面越しに笑顔がはじける（2020年3月）

目標に挑戦できる場づくりを

また、アダチベースに登録していない区内の小中高生向けに、独自事業「カタリバオンライン・キッカケプログラム」で必要な機器の無償貸与を実施し、オンラインでのつながりと学習環境を届けることをめざしています。子どもたちが安心・安全な場につながり、自信を育み、さらなる目標に挑戦していく。そんな場を創っていきたいと考えています。

地域の身近な相談相手として活躍されている民生・児童委員の方だからこそお気づきになる、子どもたちのようすがあると思います。サポートを必要とされるご家庭に気づかれたら、ぜひご連絡いただければ幸いです。

(認定特定非営利活動法人カタリバ

アダチベースマネージャー 佐渡加奈子 記)



「魚の親子」 舎人第一小 4年 菅天汰朗 作



民生・児童委員によるはがき作戦

新型コロナウイルスの感染拡大により活動の制限を受けている中で、昨年の12月から2月にかけて、民生・児童委員が80歳以上の独居高齢者などを対象に、往復はがきを送り、交流を図る取り組みを行いました。

この取り組みを実施したことで、民生・児童委員から「訪問ができない中、コロナ禍でどのように暮らしているのか分かってよかった」「対象の方も、普段の会話や電話では、言にくいことが、はがきでなら言いやすいのだと感じた」などの声がありました。高齢者からの返信の中には、具体的な相談も寄せられており、はがきの相談内容をもとに民生・児童委員から関係機関に繋ぎ、必要なサービスの利用が開始されたという事例もありました。

主任児童委員による学校訪問

また、子どもや子育て家庭への支援を専門に担当する主任児童委員は、担当する学校へ訪問し、主任児童

委員ポスターと保護者向けチラシを配布する活動を行いました。「学校訪問時に、不登校の生徒について相談があった」「校長先生や副校長先生とコミュニケーションを取ることができ、今後の活動に繋がる取り組みになった」との感想がありました。また、主任児童委員より、「まだあまり知られていないように感じたことから、年に1度でよいので、この取り組みを継続しても良いのではないか」との提案もありました。

この取り組みを踏まえて、コロナ禍での新たな取り組みについて検討するとともに、今後の活動に生かすことができれば良いと考えております。

「往復はがきによる交流」集計結果

	発送数	返信数	返信率
総合計	3,684枚	1,603枚	43.5%

サロン活動 江北ベジサロン 秋の収穫祭を願って

2月25日10時、青空の下に10名の会員が集まりました。この5月で発足から2年が経過し、現会員数は22名になりました。

いつものとおり、健康体操から始まります。今日の作業は、草取り、えんどう豆の支柱の固定、防鳥ネット張り、水やりなどです。一人ひとりがマイペースでゆっくりとすすめます。隣接する江北ひまわり園の利用者の外出時には、「行ってらっしゃい」と手を振ります。草取り作業の手と「おしゃべり」の口を休めて。

畑（大地）からは、大根、落花生、枝豆、スイカ、オクラ、ジャガイモなど、自然とのふれあいから多くの恵を受け取ることができます。そして11月には、実りの秋まつり（収穫祭）で多くの方が集まり、ひまわり園や地域の方々と絆が深まります。

今後、新型コロナウイルスの感染状況が終息した時は、ひまわり園の交流スペースをお借りして、お茶を飲みながら懇談もでき、そして楽しい収穫祭もできま

す。それまではコロナと相談しながらのサロン運営になります。

次回の作業は、ジャガイモの種芋を植えます。「今日はお疲れ様」の役員のあいさつでベジサロンは店じまいです。

(江北地区 木村克博 記)



▲ジャガイモの種芋植え時の参加者



地域を訪ねて

東澁江自治会

公園清掃活動を通して

私たちの自治会は、足立区東部にあり、地域としては、環状七号線と日立通り（通称）の間で、最寄り駅は10輛編成に駅を拡張し始発駅となった東京メトロ千代田線北綾瀬駅を下車し、環状七号線を亀有方面へ向かう途中、大谷田陸橋周辺に位置しています。

発足は昭和34年で、すでに60年を迎えており、会員数は現在413世帯です。

当自治会館近くに「稗田公園」と「内谷公園」があり、この2か所で清掃活動を行い、メインは「稗田公園」となっております。この公園には、常緑樹や落葉樹などの椎の木・紅葉・銀杏・プラタナス・欖などが植えられて



います。

清掃活動は、毎週日曜日の朝8時から行い、会員や役員を合わせて15名前後で一生懸命作業しております。特に10月下旬から12月上旬にかけては、落ち葉が多量になるため、作業は1時間を超えることもあります。しかし、このような落ち葉の絨毯を眺めたり、葉の色合いや枝の伸び具合を凝視すると、一年を通じてこのような木々が様々な表情を醸し出し、季節の移ろいというものを感じることができ、自分の感性が研ぎ澄まされる思いです。

作業終了後には、爽やかで充実した気持ちになり、その日を楽しく過ごすことができます。また、この公園では納涼大会・防災訓練・祭礼・クリーン作戦などの各種イベントも実施しており、さらに会員や役員同士の事務連絡、健康維持と増進・情報交換といったコミュニケーションも図る場として利用しております。今では、この公園は欠かす事のできない貴重な場所となっております。

今後もこのような活動をもっと多くの方に参加していただくとともに、活動を通じた自治会の「共助」の心を涵養する一翼を少しでも担うことができれば幸いに思います。

まさに、「継続は力なり」です。

（東澁江自治会副会長 富澤久男 記）

フードパントリー活動

最近のニュースでは、子どもの貧困問題に関する内容が取り上げられており、「フードパントリー」の言葉を耳にすることが多くなってきております。私が初めて、この言葉に出会ったのは、2019年10月、協働・協創推進課「子どもの未来交流会分科会」に参加した時でした。

フードパントリーとは、経済的困窮等により、食糧支援を必要としている個人・家族に直接、商品を提供するボランティア活動です。この会議を機に2020年5月、綾瀬地域にも、綾瀬パントリーを開設することになり、ひとり親家庭を対象に支援をおこなっています。

開設には、場所の提供を東京メトロから応援して頂きました。活動メンバーは、社会福祉協議会のふれあいサロン「綾瀬サロンほっとミックス」やNPO法人キッズドアが中心となり、地域から私も参加し活動が始まりました。

コロナ禍の最中でしたが、だからこそ支援が必要に迫られていました。毎月1回、30組から35組の世帯に提供しています。今年の4月から、活動場所が変わり、地域の身近な場所である綾瀬稲荷神社の社務所が活動の拠点となりました。

新しい活動をするためには、場所・人・地域の温かい見

守りが必要です。綾瀬パントリーは、たくさんの方に支えられています。私は、パントリーに訪れた方々に対して、ちょっとした言葉掛けを大切にしています。

ある日、来てくれた親子がおしゃべりをしたことで、来た時とは別人のようなさわやかな顔をして帰った時は、私もうれしい気持ちになりました。コロナ禍で人と関わる機会が減っている時期です。不安な気持ちを、パントリーの場で気軽に話せる関係ができるように心掛けていきたいと思っています。

（東綾瀬地区 椎名洋子 記）





ボランティア活動 とねりマルシェを訪ねて

3月20日、舎人地域学習センターにて開催された「とねりマルシェ」を訪ねてきました。地域で活躍するハンドメイド作家さんや、児童養護施設で暮らす子ども達の作品が販売されていて、とても賑わっていました。

「一般社団法人おせっかい子育てプロジェクト」のT&E JAPAN株式会社も出店していました。「おせっかい子育てプロジェクト」とは、子育て中の母親目線で商品企画から製造までの手作り雑貨の販売を行っています。

新型コロナウイルスの影響で、課外活動が困難になってしまった児童養護施設で暮らす子ども達にワーク



ショップを施設内で開催できないか、と足立区役所より相談を受け昨年の11月から始まりました。施設を卒園したあとも、自立を身につけさせ子ども達の支えになりたい。そんな「おせっかい」だけど希望にあふれる取り組みにしたいという想いから「おせっかい子育てプロジェクト」という名称になったそうです。

今後は卒園後に子ども達が、活躍できるための「里親」となるような「里親企業」も考えているようです。

(15地区 高橋純子 記)

ラジオ体操で安否確認

新型コロナウイルスのため、区内の住区センターや地域学習センターで実施している各教室は中止となり、体を動かすことや、人と話をするのが少なくなっている高齢者が多くいると思われます。

ラジオ体操は屋外で距離を保ちながら行っているためコロナ禍でも実施でき、様々な利点があります。

1. ラジオ体操会場まで歩き運動になる。(会場が近い人は遠回りして来る)
2. 朝の挨拶と体操が始まる前までのおしゃべりは、脳の活性化になる。
3. 体操をすることで、普段使わない筋肉を動かすことができる。
4. お休みすると「あの人はどうしたの?」と自宅を訪問して安否確認ができる。
5. 年2回「ラジオ体操親睦会」を開催し地域の輪ができる(去年はコロナ禍で未開催)。

今は民生・児童委員として、ラジオ体操



コロナ禍で運動

を通して安否確認やラジオ体操に参加していない方の情報入手、ラジオ体操への勧誘を兼ねて見守り訪問をしています。

運動不足と感じている方も含め、ご近所の高齢者と顔見知りになれるので、お近くのラジオ体操の会に顔をだしてみてもどうでしょうか。

(広報委員会 記)



▲六木三丁目ラジオ体操会の会場は諏訪神社境内



ぶらり足立

「花畑運河」から「花畑川」へ

足立区の東北部には「中川」と「綾瀬川」が流れています。昭和初期、水運の不便を解消する目的で中川と綾瀬川を結ぶ「花畑運河」が、昭和2年から4年の歳月を掛け開削してできました。この辺りは一面水田でしたが、掘りだした土で畑にしたとのことです。

それから90年経過した今、すでに運河としての使



▲富士見歩道橋から桜木橋、花見橋を望む

命は終わり「花畑運河」という名称は「花畑川」と変わっています。そして「川」としての用途もなくなったということで、令和3年度からは川幅を現在の約半分にする工事が始まるようです。

川幅を狭くして誕生した兩岸のスペースには木を植え、散策路になる計画とのことです。

花畑川には、5つの橋が架かっています。その橋の名称は中川に近い方から花見橋、桜木橋、富士見歩道橋、雪見橋、月見橋です。橋の名称として「地名」がよく使われますが、花畑川に架かる橋の名称は、お酒の好きな人が決めたのかもしれませんが。花見（桜見）酒、富士見酒、雪見酒、月見酒。偶然なのか洒落なのか！

＜数年後には桜の新名所誕生＞

直線で1.4 kmある花畑川の兩岸には桜の木を植える計画とのことです。数年後には足立区に新しい桜の名所ができ、地域住民の憩いの場所になるものと期待しています。

地域の皆様に「花畑川で花見ができるのを楽しみにしましょう！」と声を掛けていきます。

（神明地区 矢澤敏臣 記）

足立区立竹の塚中学校

夕焼けを見ながら帰る通学路夕日が沈み電灯光る
二年 林 飛雄

海の中底近くにて揺らいでるきらりと光る海の宝石
二年 石田のぞみ

春の香り桜舞う時春を感じ始めなきやと思わされる時期
二年 篠原 空雅

帰り道紅葉の中踏み歩き君といた時ふと思ひ出す
二年 佐々木杏奈

消しゴムを好きなアノ子に投げつける叱られるときが最高の時間
二年 横山 康成

中学生短歌コーナー



「元気いっぱいとう」

舎人小 3年 鈴木 悠之助 作



【追悼】 元足立区民生・児童委員協議会会長 中田貢弘氏 逝去



豪快、そして活動的、それでいていつも人に対して気遣いをされる細やかな神経の持ち主であった中田貢弘協議会元会長が令和3年2月21日にお亡くなりになりました。77歳で在られました。謹んでお悔やみ申し上げます。

足立区民生・児童委員協議会会長を4期12年務められ足立区の社会福祉の向上に貢献されました。その間、東京都民生児童委員連合会におきましても持ち前のリーダーシップを発揮され民生・児童委員の地位の向上、そして活動の在り方について改革を行い素晴らしい功績を残されました。又、足立区教育委員を務められたときは足立区の教育にとって何が必要か、子供達の将来を考え様々なことを提案し実

行に移されました。教育委員が終わった後も中田協議会元会長が創設した足立フォーラム21が行っている「足立凧まつり」、心の病を考えようと作られた「こころの健康フェスティバル」は年々盛大になっております。会長の意思が受け継がれていくものと思います。今後も足立区社会福祉協議会会長としてこれから益々活躍されるものと思っておりました所、この様なことになってしまったことは誠に惜別の念に堪えませ

ん。
私事ですが、中田会長には40年以上の間、弟のように可愛がっていただき御指導いただきました。心より感謝申し上げます。これからは中田会長の遺志を継ぎ社会福祉の向上の為、微力ではございますが頑張っ

て行きたいと思っております。

中田会長、ありがとうございました。
足立区民生・児童委員協議会会長 市村 智

足立区は活動記録提出率100%継続中です

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大は残念ながらまだ出口が見えません。この間、生活様式は一変し、民生・児童委員の活動も制限されております。

人と人のふれあいがままならない中、種々の活動や行事も中止、縮小されているため、広報紙「さ

くら」の果たす役割は一段と重要になったのではないかと思います。

これからも人と人を繋ぐ広報紙でありたいと願っております。

(佐野地区 坂井成一 記)

- 小学生掲載絵画および中学生短歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。
- 原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。
- 皆様の原稿を募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）。次号発行予定日 令和3年11月1日

広報委員会

委員長 益塚賢治
副委員長 齋藤祐子
書記 高橋純子
会計 小川玲子
編集長 鈴木健治
副編集長 金宮和代
レイアウト 吉田祐一
矢澤敏一
校正長 足立由美子
編集委員 杉本和子
今井幸則
鈴木博
渡邊進
吉澤はる江
木村克博
佐藤進
鈴木恒男
校正委員 芦田利恵
富澤久恵
坂井成一
桐田幸一郎
鶴岡一夫
土屋幸枝
神野松江
齋木安